



病院の実力2026 > 西の京病院

医療法人 康仁会

西の京病院

奈良発・全国の新基準を目指す 早期回復の人工関節医療



人工関節センター長

齊藤 昌彦

●さいとう・まさひこ／奈良県立医科大学卒。人工膝・股関節を中心とする関節外科専門医。四肢外傷やスポーツ外傷にも精通。DMAT隊員、Bリーグ・パンビシャス奈良マッチドクター、奈良県バスケットボール協会医科学部長なども務める。

低侵襲と精密支援が回復の常識を変える

西の京病院は、病院機能を頂点に在宅医療や介護までを一体で支える山型の「富士山構想」を共有し、「一生を見守る総合医療施設」として地域医療を担っています。三世代で通院する患者も多く、人工関節に関する相談は年々増加しています。

人工関節センター長の齊藤昌彦医師は、「かつては高齢という理由で手術を諦める方が多くいましたが、現在は技術と機器の進歩により、年齢だけで制限する時代ではありません」と語ります。保存療法で改善せず、歩行や日常生活に支障が生じている患者に対し、同センターでは丁寧な検査と対話を重ね、治療方針を決定しています。

人工膝関節では、全置換術（TKA）に加え、靭帯を温存できる単顆置換術（UKA）を実施。手術支援ロボット「ROSA」により骨切り量や角度を高精度に制御し、出血量や術後疼痛の軽減、入院期間の短縮を図っています。

一方、同院の大きな特徴が人工股関節治療です。筋肉を一切切らないAMIS（最小侵襲前方進入法）を柱とし、術後疼痛を最小限に抑えながら早期回復を実現しています。術後3日で退院した症例や、90歳で術後2週間で退院した症例もあります。40代から100歳まで幅広い患者層に対応し、365日体制のリハビリが早期退院と社会復帰を支えています。

齊藤医師は「先進の技術を、確実に患者さんの利益につなげることが使命です」と述べ、地域で完結する高度な人工関節医療を実践しています。



●**靭帯バランスをチェック**

ロボット支援による人工膝関節全置換術の一場面。手術支援ロボット「ROSA」が骨切り精度を補助し、執刀医の判断と技術を高精度に支えることで、低侵襲かつ安定した手術を実現している。

人工関節手術実績 (2025年1月～12月)	股関節 (THA)	114件
	膝関節 (TKA+UKA)	109件
	手術総数	223件

HOSPITAL DATA



医療法人 康仁会

西の京病院

〒630-8041 奈良県奈良市六条町102-1

TEL.0742-35-1121 (代)

<https://www.nishinokyo.or.jp/>



信頼できる病院選びの決定版!

病院の実力

2026総合編 オンライン併載企画・病院広告

[広告]企画・制作 読売新聞社ビジネス局